

制作番組のご案内 (共同制作:株式会社オペテージ)

村瀬先生の『ぶらり関西歴史旅』

江戸時代の古地図を手に、大阪の昔と今を比べて学ぶ街歩き番組『ぶらり関西歴史旅』。その最新版<大阪・梅田編>では、梅田駅周辺から北新地を訪ねます。170年前の梅田が、高層ビルが林立する大阪の中心地になるまでにどんなことがあったのか。「なにわの地理博士」こと大手予備校・東進ハイスクールの人気講師・村瀬哲史さんの案内で、フリーアナウンサーの市川いずみさんと一緒に、数々の意外な事実をご紹介します。



大阪・梅田編



どうして「梅田」になった?…古地図A

現在の梅田一帯は、江戸時代まで地図には何も記されていない湿地帯でした。そこを埋め立てたことから「埋田(うめた)」と呼ばれ、それが転じて「梅田」という地名になったそうです。

かつては「墓地」だった!…古地図B

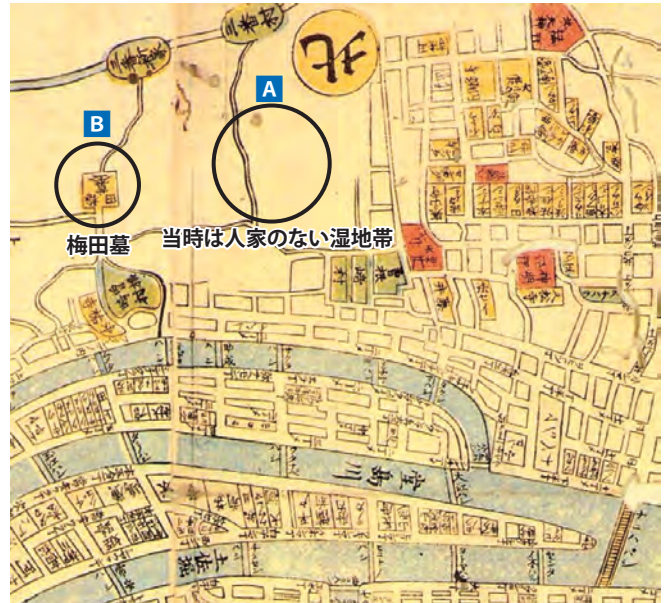
梅田貨物駅の跡地にできたグランフロント大阪(うめきた)あたりを江戸時代の地図で見ると、「梅田墓」と記載。当地の造成にあたっては、江戸時代後期から明治初期にかけての1500体を超える人骨が発見されました。



グランフロント大阪にて



発見された人骨(大阪市HPより)



1845年 弘化改正大坂細見図(大阪市立図書館デジタルアーカイブより部分)

住民が大反対した「大阪駅」…古地図C

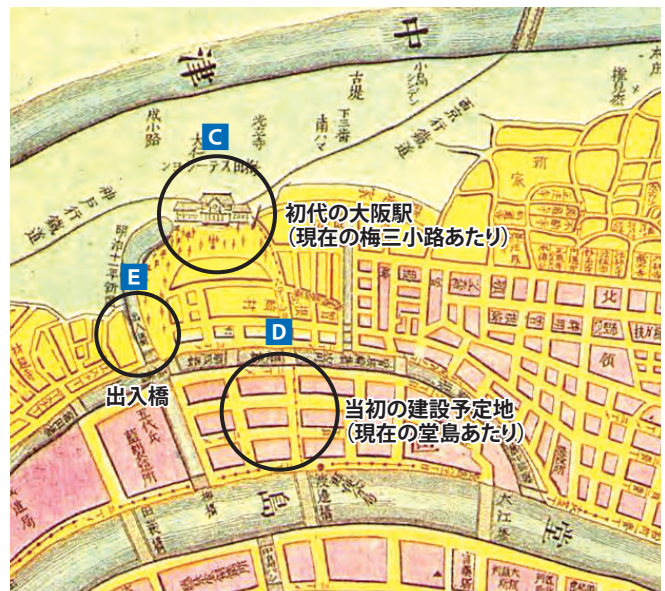
初代の大阪駅は、明治7(1874)年に現在の梅三小路(大阪中央郵便局旧局舎の隣)に開業。もともとは賑やかな堂島あたりに建設予定でしたが、蒸気機関車による煙害や舞い散る火の粉が火事の原因になるとして住民の反対運動が起き、辺鄙で民家のない梅田の地が選ばれました。



木造2階建ての初代大阪駅



現在のJR大阪駅



1881年 新選大阪市中細見全図(大阪市立図書館デジタルアーカイブより部分)

「出入橋」の名物といえば…古地図E

明治14(1881)年の地図には、大阪駅まで船で荷物を運ぶための水路が描かれています。昭和20年代(1945~54年)まで、ここでは船の出入りが多く「出入橋」と呼ばれていました。のちに水路は埋め立てられましたが、橋は現在も残されています。そのもとにある創業約80年の「出入橋きんつば屋」の名物「きんつば」は、昔、大阪駅まで船で荷物を運んできた労働者の「おやつ」でした。



現在の出入橋



きんつば(出入橋きんつば屋)

- 番組でチェック!
- 「茶屋町」「きんつば」の名前の由来は?
 - 北新地にあった「曾根崎川」ってどんな川?
 - テーマは宇宙船!? 昭和22年開業「マヅラ喫茶店」

村瀬哲史(むらせあきふみ)
東進ハイスクール 東進衛星予備校 地理講師
「楽しく学ぶ地理」をモットーとした授業で学生に大好評。
一度観ると忘れられない! そんなキャラクターでテレビ・ラジオでも活躍中!

右記のQRコードを読み込むか、当協会ホームページにアクセスしてご覧ください。
(<http://www.osaka21.or.jp/movie/index.html>)

